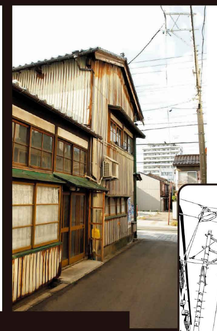


魅惑の路地空間 密集地、上本町

銅屋小路～舟蔵小路

2 銅屋小路（どやこうじ）：昔、小路の東堀対岸（現東堀通一番町）に銅屋（新潟の方言で鋳物師）の屋敷があったのでこの名になったと思われる。

歩きながらリラックスできそうな、ほっと一息つける小路が続きますよ。ポロッポー。

4 舟蔵小路（ふなぐらこうじ）：古い絵図には新右衛門小路などと記されている。小路の信濃川べりに舟を納める蔵が並んでいたことから、しだいに舟蔵小路と言われるようになったらしい。

●現在の町並みができた明暦の頃、当時大川と呼ばれていた信濃川の川岸は、現在の上大川前通のところにありました。本町通は信濃川岸と片原堀（後の東堀）に挟まれた通りで、古町通とともに多くの町民が店を構えていたといいます。通りがゆるくカーブしているのは、信濃川の流れにそって町が形作られたから。川と密接な関係にあった暮らしが垣間見えるようです。

6 曲師屋小路（まげしやこうじ）：古い絵図には金四郎小路と記されている。ここに曲師屋（木を曲げて、ふるいやせいろうを作る職人）が住んでいたことから、曲師屋小路と呼ばれるようになったと思われる。明治の町名改正では、丁持小路とともに横一番町通と改められている。

7 新川小路（しんかわこうじ）：初めは平兵衛小路という上大川前通と東堀の間の小路であったが、そこに新川が堀り割られた。幕末までには埋め戻されて道になり、明治になって西堀まで延長された。堀であった時の名が使われている。

しつらいの小路に包まれる

曲師屋小路～碇屋小路

穏やかな住宅地が続くエリア。蔵や味わいのある建物も見ることができますよ。住んでいる方たちが大切に育てている樹木が小路の景色になっていて、とてもきれいですニャ。

10 碇屋小路（いかりやこうじ）：江戸時代、上大川前通とこの小路の角に碇屋六蔵の外屋敷があったことから、碇屋小路と呼ばれたと思われる。

8 権現小路（ごんげんこうじ）：江戸時代、古町には熊野権現社があり、権現社と東堀の間の小路は権現小路と呼ばれていた。その後、この小路につながる東堀と上大川前通の間の由右衛門小路も権現小路と呼ばれるようになった。

誰もいなくても、ここを大切にしている人の気配がする。小路には、そんな安心感がありますニャ。きっとそれが小路の魅力にもつながっているんですニャ。

11 鍛冶小路（かじこうじ）：鍛冶屋ではなく、屋号か姓から付いた小路名と思われる。上大川前通と西堀の間の小路であったが、現在はその延長上の道も鍛冶小路と呼ばれている。明治の町名改正では横二番町通と改められた。

新潟の“巣鴨”から上の本町市場へ

鍛冶小路～小原小路

服屋、魚屋、お茶屋さん。この界隈は東京の巣鴨みたいな佇まいが続くのニャ。新津屋小路の白龍大楠現にお参りするのは忘れてはいけないのニャ。

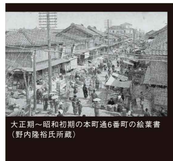
12 加賀屋小路（かがやこうじ）：江戸時代、本町通とこの小路の角に加賀屋三九郎の屋敷があったことから、加賀屋小路と呼ばれたと思われる。古い絵図には、こんや小路、三九郎小路と記されているものもある。

14 小原小路（おばらこうじ）：江戸時代、小路の東堀対岸に小原八三郎の外屋敷があったので、この名になったと思われる。

征谷小路に続く

学校の総合学習に小路めぐりが登場したニャよ。08年の千灯まつりでは、本町通5・6番町の皆さんが小路イラストで大灯籠を作ってくれたニャ。きれいニャー！

13 新津屋小路（にいつやこうじ）：新津屋小路堀という堀の両側に付けられた小路であった。新津屋小路堀は、明治の町名改正で二番堀と改められた。堀は最後になって埋め立てられ、広い小路になった。



大正期～昭和初期の本町通6番町の絵葉書（野内隆裕氏所蔵）

●新潟町の中心である本町通と新津屋小路堀が交差するあたりでは、毎日朝市が開かれ、町の人たちの生活に欠かせない野菜・魚・穀類が売買されました。野菜などは近郷から船で運ばれました。

※小路の番号は地図記載の番号です。